

少年よ大志を抱け

理事 北原 巖男

「少年よ大志を抱け」 こういう言葉を聴くと、あなたはオジンがなに古くさいことを言っているんだ。そう思うに違いありません。北海道だろ、クラーク博士だろ、そんなの知ってて当たり前だろ。今さらなんだ。もう立身出世の時代じゃないだろ。

あなたがそう思っているのであれば、もう一度この言葉について考えてみる必要があります。この言葉には続きがあります。「少年よ大志を抱け、それは金銭や我欲の為でなく、また人呼んで名声と言う空しいものでもない。人間として持つべきものを成し遂げるために大志を抱け。」つまり究極の目的は人格の完成なのでしょう。海外に雄飛したり、それぞれの専門を深めたり、あるいは地域に貢献したり、人はそれぞれの人生を歩んで行きます。それでも人としての軸、人格を高める努力を続けることが望まれます。

金銭や我欲はともかく、名声がなぜ空しいのでしょうか。人間には承認欲求が必ずあります。

それが行動の動機づけになり、大きな成果を得られることもあるでしょう。非常に大事なことです。しかし、承認欲求が強すぎると逆に苦しめられるケースも出て来ます。自分が認められない。自分のことを誰も分かってくれない。すると失望だけが肥大していくことになります。

大切なことは名声を求めるのではなく、自分が本当に大事だと思えることを行う事なのではないでしょうか。

皆さんはお母さまが大変な苦勞をして育ててくださいました。掌中の珠と言っても過言ではありません。家族の大切さを皆さんほど感じている人たちはいないでしょう。これから家族を大事に、周りの人々に、古岡奨学会の奨学生の誇りを胸に元気に活動されることを期待します。

(東ティモール民主共和国名誉総領事・元防衛施設庁長官)

「奨学」第44号/令和8年(2026年)
古岡奨学会第44期生文集
公益財団法人古岡奨学会
令和8年(2026)年1月1日発行

